スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和6年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

兵庫県 猪名川町

自 治 体 名 ： 兵庫県猪名川町
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 072-766-6006

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	90.33 ㎢
人口	28,664 人
公立中学校数	2 校
公立中学校生徒数	863 人
部活動数	16 部活
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	協議中

地域連携・地域移行における市区町村の現状・課題

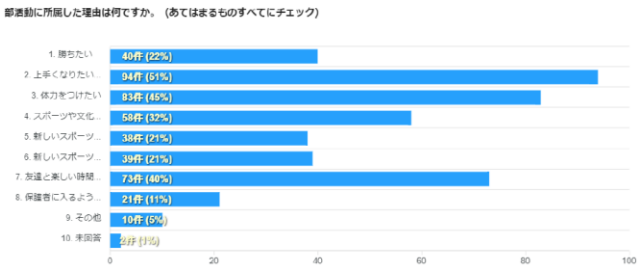
現在、猪名川町では猪名川町スポーツ協会と猪名川町スポーツ少年団を中心に、中学生の地域でのスポーツ・文化活動の充実・創設を行っている。これまでの学校部活動になかった競技・種目に生徒たちが参加できたり、これまで続けてきた競技・種目に引き続き取り組むことができるようになる。これらの環境整備は、生徒たちの「技術力向上」を求める気持ちと、「スポーツを楽しみたい」という気持ちの両方を満たしていけると考えている。また、猪名川町全体で生徒の活動をサポートすることで学校によって実施される種目の違いが解消され、より多様な選択をすることができるようになる。

しかし、種目が多様的になることとは反対に、少子化は年々進行している。令和元年度には1,039人いた中学生は令和10年度に691人まで減少する。新たな競技・種目が増えてしまったことでチームが組めなかったり、十分な練習が実施できないことが懸念される。また、指導者の高齢化も進んでいる。町内の65歳以上の人口は30%を超えている。そのため、中学生にとって新たな活動場所となった団体であっても、後継者不足のため、これから先も持続的に運営することが難しい現状である。

1　少子化の進行（活動する子どもの減少）

令和元年度	令和5年度	令和10年度
中学校1，039人	中学校　891人	中学校　691人
小学校1，848人	小学校　1，507人	小学校　954人

出典：令和５年度猪名川町教育要覧



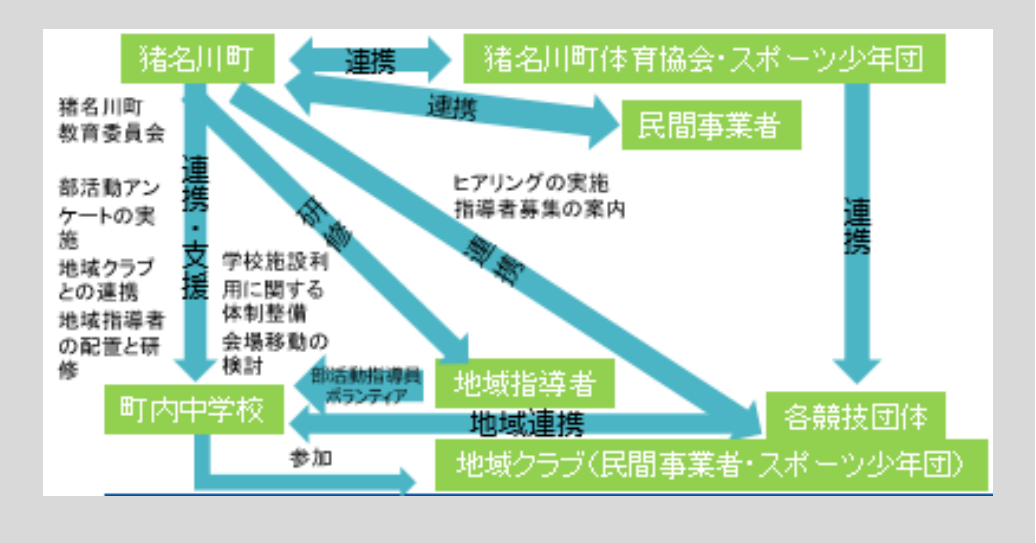
出典：猪名川町教育委員会独自調査

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●運営体制図（市区町村における推進体制図）



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会

・地域クラブとの連携、地域指導者の発掘

・生徒へのヒアリングの実施、放課後の会場移動の検討

・小・中学生と保護者に向けての説明会の実施

◉首長部局

・猪名川町体育協会・スポーツ少年団と地域連携に向けた協議の実施

・猪名川町体育協会・スポーツ少年団と地域連携に向けた説明会の実施

・学校施設の使用に関する手続きの整備

年間の事業スケジュール

令和６年４月	男子バスケットボールの地域クラブ活動を開始
令和６年６月	地域クラブ活動の視察 アスリート人材の活用
令和６年７月	各地域クラブ団体との協議
令和６年８月	町立施設の利用に関する検討会議
令和６年９月	スクールバス活用検討会開催 夜間照明設備の設置に関する検討会の開催 体育・スポーツ系大学生の活用開始
令和６年11月	部活動における学校施設の利用状況と備品管理の状況調査 夜間照明使用団体の視察
令和６年12月	男女ソフトテニスの地域クラブ活動を開始
令和７年１月	猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議の実施 保護者説明会の開催

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の運営実績

①全体に関すること

中学校数	2 校	実施した地域クラブ総数	1 5 クラブ
ケース別クラブ数	A：部活動を地域移行した形のクラブ数（及び移行された部活動数）		3 クラブ（ 0 部活）
	B：部活動を移行する形態ではない地域クラブ（新たな種目のクラブを新規に創設するケース等）		1 2 クラブ
全体の指導者数	2 1 人	全体の運営スタッフ数	2 5 人

②各クラブに関すること（ケース別クラブ数のAに関する事項を抜粋）

クラブ名	運営団体種別	種目 ※新規のものは末尾に（新）を付ける	実施回数	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	活動場所	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
ひよどりジュニアバドミントンクラブ	猪名川町スポーツ協会	バドミントン	週 4 回	平日 夜 休日 夕	小学生～高校生	通年	猪名川町立小中学校体育館	1 人	4 人	月会費 2,500 円	中体連：地域クラブ その他：地域クラブ
FALCONS U15	民間団体	男子バスケットボール（新）	週 4 回	平日 夜 休日 午前	中学生	通年	猪名川町立中学校体育館	1 人	1 人	月会費 4,800 円	中体連：部活動、地域クラブ その他：地域クラブ
いながわ Wings	民間団体	男女ソフトテニス（新）	週 4 回	平日 夜	中学生	通年	猪名川町スポーツセンター	6 人	1 人	月会費 1,600 円	中体連：部活動 その他：部活動

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- 随時、体験会を実施
- 猪名川町教育委員会発行広報紙を活用して、活用内容を普及

2.実証内容と成果

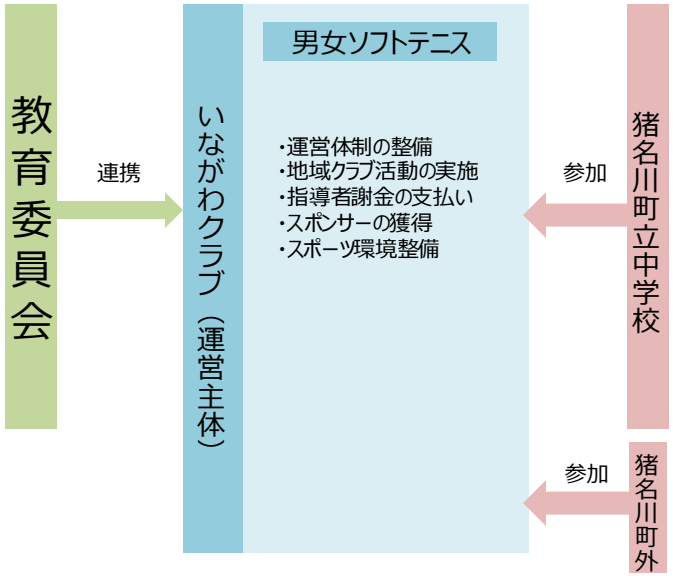
スポーツ庁

主な取組例

●一般社団法人いながわクラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男女ソフトテニス
運営団体名	一般社団法人いながわクラブ
期間と日数	男女ソフトテニス 12月4日 ～ 3月26日 週１回程度
指導者の主な属性	教員の兼職兼業、地域ボランティア
活動場所	猪名川町立スポーツセンター
主な移動手段	保護者送迎、スクールバス
１人あたりの参加会費等（年額）	男女ソフトテニス：1,600円
１人あたりの保険料	保険料 生徒１人あたり：170円/月 指導者１人あたり：210円/月

●運営体制図（地域クラブ活動を実施する際の運営体制図）



●指導者や運営スタッフなどの役割分担等

●統括責任者

役割：活動管理者として生徒、保護者、地域等関係者との連携を行う

●主任指導者　５ 名

役割：生徒への技術指導を行う

●運営補助者　１ 名

役割：主任指導者と共に生徒への指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

○広域的な活動を行う統括コーディネーターを１名配置し、関係団体との連絡調整・指導助言等を行う。

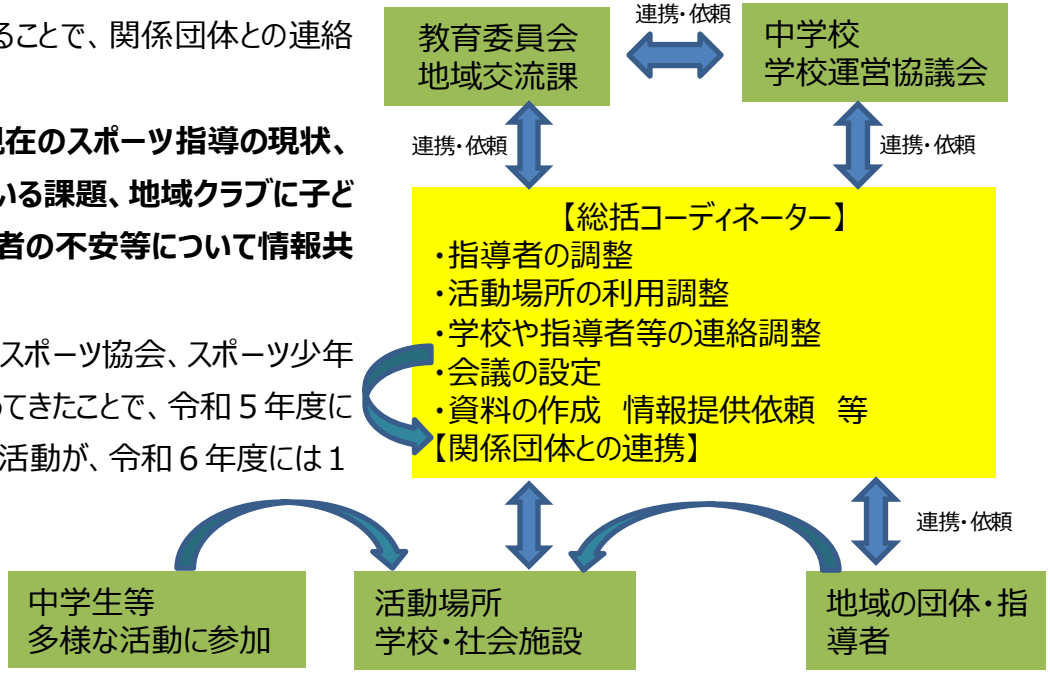
○猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議を開催し、学識経験者やスポーツ協会、中学校体育連盟代表校長、保護者会それぞれの立場から意見を述べあえる組織体制を構築する。

取組の成果

○総括コーディネーターを配置することで、関係団体との連絡調整を円滑に行うことができた。

○**検討会議を開催することで、現在のスポーツ指導の現状、地域スポーツ関係団体が抱えている課題、地域クラブに子どもを参加させるにあたっての保護者の不安等について情報共有することができた。**

○総括コーディネーターを中心に、スポーツ協会、スポーツ少年団、民間団体等との連携をすすめてきたことで、令和５年度には実施できていなかった地域クラブ活動が、令和６年度には１５種目で実施することができた。



コーディネーターの具体的な動きの実績

【総括コーディネーター】

・シーズンごとに地域クラブを視察。参加している生徒にヒアリングを実施。

・行政と関係団体の連絡調整を実施。

・地域クラブに広報資料の作成を依頼。

今後の課題と対応方針

・活動している地域クラブ数の増加に伴い、施設利用や環境整備等の調整を図る必要がある。

・地域住民により周知するために、広報活動の在り方を検討する。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

指導者研修の内容

【熱中症・スポーツ傷害等に関する研修会】

・対象：生徒、教員、保護者、地域クラブ指導者

・目的：熱中症やスポーツ傷害、感染症予防等に関する理解を深める

工夫した点：各競技ごとに巡回し、ドクターによるデモンストレーションを実施した。

【運動部活動安全講習会】

・対象：教員、部活動指導員、地域クラブ指導者

・目的：打撲・捻挫・肉離れ：スポーツ現場でよくある外傷の病態と対処法を学ぶ

工夫した点：参加自ら身体を動かす参加型の講習会を実施した。

指導者研修の参加実績

・開催日：　7月11日、1月29日

・開催回数：　2 回

・参加人数：　67 人

受講者の声

・「専門的な話もありましたが、分かりやすく伝えてくださり、現場でも活かせる内容だったと思います。」

・「実際に身体を動かしながらの講習だったので、より理解が深まりました。」

・「今日教えてもらったトレーニングを、家に帰ってもしてみようと思います。」

・「今日聞けたことを子どもたちにも伝えていきたい。」

・「専門家の方から話が聞けたのはよかったが、今の子どもたちにおきやすいスポーツ傷害についての話をもう少し聞きたかった。」

・「このような機会だけでなく、日ごろから気軽に相談できたり、対応してもらえたりする環境が整ってほしいなと感じた。」

・「今日の話を聞いて、ストレッチをしようと思いました。」

今後の課題と対応方針

○研修の開催日が平日だったため、地域クラブの指導者の参加率が低かった。

○スポーツの指導に関わる方々の悩みや困り感をヒアリングした上で、研修のテーマを設定する必要がある。

○地域クラブの指導者やサポートスタッフの参加率を高めるために、広報を工夫する。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

○学校と連携して進めていくため、小中学校校長会や教員対象の説明会等において、本町の取組及び今後の見通し等の説明を実施。

○指導者や学生の派遣、指導者の学び直し等について**宝塚医療大学と連携。**

○**スクールバスを活用**し、生徒の活動場所までの移動手段を確保した。

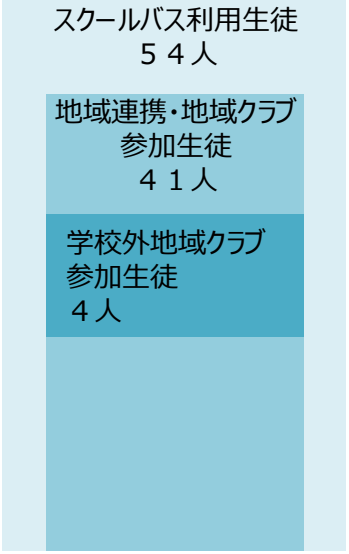
取組の成果

○中学校校長会や各小・中学校を訪問し、本町の取組及び今後の見通しを説明することで、教員の地域展開に対する主体性が生まれてきた。

○**保護者対象の説明会を実施**することで、地域展開を進めていく中での課題に気づくことができた。

○体育・スポーツ系の大学と連携することで、現在のスポーツ指導の在り方について学ぶことができた。また、**学生を指導者として派遣**してもらうことで、より大人数で指導にあたることができた。

○スクールバスで登下校している生徒４名が学校外で実施されている地域クラブ活動に**スクールバスを活用**することで参加することができた。



バス等の運行実績

・日数　　95 日
・利用者数　　41 人
・運行経路
中学校～町立スポーツセンター～自宅付近のバス停
中学校～自宅付近のバス停

バス等の運航経費・収入

・委託費
地域連携・地域展開関連経費
3,782,639円
・利用料
生徒の負担なし

今後の課題と対応方針

○スポーツ栄養学やスポーツ科学、アスレチックトレーナーの活用等、大学連携の在り方をより一層充実させる。

○スクールバス停留所を見直し、活用範囲を拡大する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　カ：参加費用負担の支援等

取組の成果

地域クラブ活動への転換に向けて、部活動指導員の活用や地域ボランティア人材の活用など地域連携に取り組んでいる。部活動運営にかかわる人員が増えたことで、部活動顧問として配置されている主幹教諭・教諭の超過勤務時間数が減少している。令和４年度には月平均５３時間だった超過勤務時間数が、令和５年度には部活動指導員に加えて地域ボランティアスタッフも運営にかかわるようになったことから、超過勤務時間数が４７時間に減少している。令和６年度からは地域連携がさらにすすみ、複数の種目で地域スタッフが生徒の指導にあたるようになったことから、超過勤務時間数は４４時間にまで減少している。今後は地域連携を加速させ、地域クラブ活動への転換を図ることで、これまで以上に教員の超過勤務時間数が減少すると考えている。

		中学校		
		R4	R5	R6
教諭・主幹教諭	4～12月平均	53:47	47:02	44:31
①月80時間超えがある人		29	20	16
②①以外で45～80時間がある人		17	30	28
③すべての月で45時間未満の人		5	8	13
		/51人	/58人	/57人

出典：猪名川町教育委員会独自調査

今後の課題と対応方針

○教員の兼職兼業にかかる指導者報酬と受益者負担のバランスについて検討する。
○困窮世帯が地域クラブ活動に参加する際の補助金支給の在り方について検討する。
○低廉な受益者負担にするためにも、寄付や企業スポンサー等の募集について検討する。
○持続可能な団体運営に向けて、必要経費を明確にする。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

総括コーディネーターを中心に、地域の団体と行政・学校が連携する体制を整えてきた。１つ１つの団体からヒアリングを実施し、実際の活動状況や新たに中学生が参加できるのかどうか等、各地域スポーツ環境の現状把握に努めた。学校部活動を地域に転換していくにあたり、地域の実情を把握するのは不可欠であった。

また、青少年スポーツ活動の意義について、改めて地域の方々と議論する機会を得ることができた。議論する中で、地域クラブ活動へ転換することはこれまでの部活動を地域で展開するだけにとどまらず、地域の町づくりにもかかわる大きな取り組みであるということ、これまでのスポーツ指導のあり方を転換するチャンスであることなどが話題に挙がった。教育委員会だけでなく、様々な行政部局を巻き込んで取り組みを進めていく必要性を感じた。

●成果の評価

○地域団体と学校部活動をつなぐ役割を担う総括コーディネーターを配置したことで、円滑に地域連携を進めることができた。

○猪名川町立中学校の部活動の地域連携及び地域クラブ活動移行検討会議や保護者対象の説明会、教員対象の説明会を開催したことで、それぞれの立場の方々と意見交換をすることができ、地域展開に関する認知度を高めることができた。

○体育・スポーツ系大学の学生やアスリート人材を活用したことで、これまで以上に専門的な指導を受けることができた。

○町立体育館やスポーツセンターを活用することで、冷暖房設備やナイター設備が整った環境の中で、子どもたちが練習に取り組めた。

○スクールバスの活用により、生徒の移動手段のあり方の１つを示すことができた。

●今後に向けて

○学校部活動で実施されているすべてのスポーツ種目を、令和８年４月から地域展開する。

○地域展開するにあたり、青少年のスポーツ環境の在り方について見直し、子どもの意見を踏まえながら、スポーツ指導及び団体運営を行う。

○中学校部活動の地域展開の枠にとどまらず、子どもから大人まで多世代が交流できる場となるような地域展開のあり方を検討する。

○地域・社会総がかりで地域展開に取り組めるよう広報をあり方を工夫する。

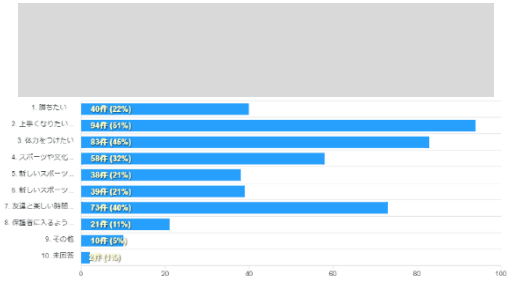
2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者の声

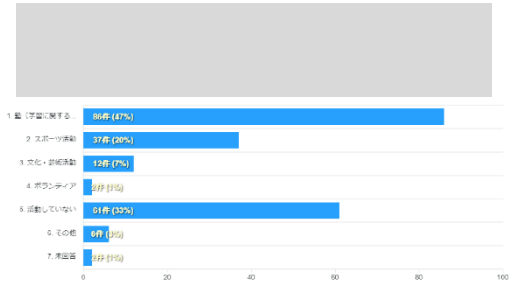
●アンケート結果

Q.あなたが部活動に所属した理由を選んでください。（複数回答可）



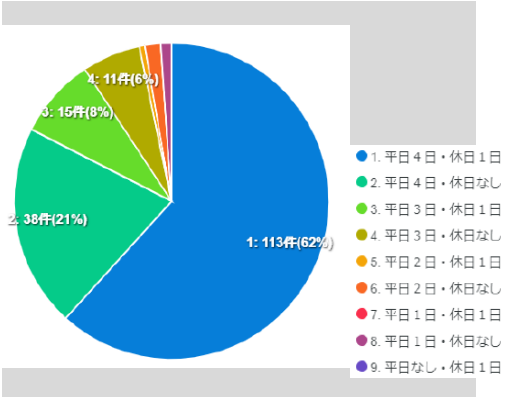
出典：猪名川町教育委員会独自調査

Q.学校外で取り組んでいる活動はありますか。（複数回答可）



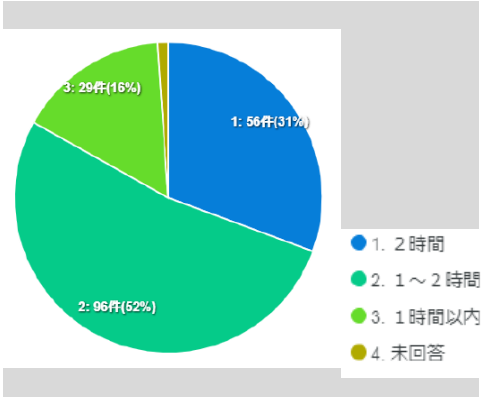
出典：猪名川町教育委員会独自調査

Q.平日の活動日数は何日がいいですか。



出典：猪名川町教育委員会独自調査

Q.平日の活動時間は何時間がいいですか。



出典：猪名川町教育委員会独自調査

●参加者の声

中学２年生

地域の体育館は広くて、冷房もついているから活動がしやすいです。

中学１年生

自分が取り組んでいる種目は中学校の部活動になかったので、参加しているチームで大会に出られるのがうれしい。

保護者

学校部活動だと、子どもが練習しているところを見に行くのが難しい。地域クラブであれば子どもを送迎しがてら、練習しているところが見られたり、サポートをしながら一緒に参加できたりするのがいい。

指導者

これまで小学校段階で一生懸命に協議に打ち込んでいた子が、部活動に種目がないことをきっかけに辞めていた。これからは地域クラブが中体連の大会にも出場できるので、競技を続ける子が増えた。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料（活動写真）



【合同練習会の実施】



【トレーナーの活用】



【スクールバスの活用】



【地域指導者との連携】

2.実証内容と成果④

スポーツ庁

地域スポーツクラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和５年		令和６年		令和７年	令和８年
協議会設置、検討開始、関係団体に説明 ▶	学校、生徒、保護者への説明 ▶	学校部活動と地域クラブの調整 ▶	地域連携、地域クラブ活動の開始 ▶	地域クラブ活動の拡大 ▶	学校部活動を地域クラブへ全面転換

●ステークホルダー
猪名川町スポーツ協会、
猪名川町スポーツ少年団、学校

●経過
地域展開に関する概要を説明
教職員対象に地域クラブ活動に関するアンケート調査を実施

●実施にあたって生じた課題
指導者の確保、団体数の確保、
地域展開の中核を担う組織体制の構築

●実施内容、工夫した点 等
全体会を実施したのち、各種スポーツ協会と個別に打合せを実施
各学校部活動顧問からのヒアリングを実施

●ステークホルダー
猪名川町スポーツ協会、
猪名川町スポーツ少年団、学校、
民間団体、地域ランティア人材、教員

●経過
部活動における地域指導者の指導
学校部活動外の地域クラブ活動の実施

●実施にあたって生じた課題
生徒の移動手段の確保、部活動と地域クラブの連絡調整、活動場所の安定的な確保

●実施内容、工夫した点 等
各種目ごとに学校部活動顧問と地域クラブ指導者の検討会を設置
広報誌によるボランティア人材の募集

●ステークホルダー
猪名川町スポーツ協会、
猪名川町スポーツ少年団、学校、
民間団体、地域ランティア人材、教員

●経過
平日休日問わずに地域クラブ活動の実施
地域連携の拡大

●実施にあたって生じた課題
指導者間の連絡調整
在籍校以外で活動する生徒の移動手段や連絡方法

●実施内容、工夫した点 等
アプリを導入することで連絡方法を確立
施設利用に関する検討会を設置

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

